

ムーンショット型研究開発制度5年目評価について  
(目標7)

令和7年11月28日  
健康・医療戦略推進本部

ムーンショット（以下、「MS」という。）型研究開発制度は、我が国発の破壊的イノベーションの創出を目指し、従来技術の延長にない、より大胆な発想に基づく挑戦的な研究開発を推進する最大10年間にわたる国の大規模研究プログラムである。

健康・医療分野におけるムーンショット型研究開発制度の運用・評価指針において健康・医療戦略推進本部が行うこととされている「目標7」の5年目の評価について、以下のとおりとする。本目標については、

○ 繼続／終了

とする。

（評価）

○ MS目標に対する進捗状況

プログラム・ディレクターのリーダーシップのもと、「慢性炎症の制御」をキーワードに、加齢とともに乱れる恒常性維持システムをQOLを維持した上でいかに克服し制御していくかという視点で、基礎から応用にわたる研究開発を一体的に推進している。研究開発基盤がしっかりと構築され、基礎研究で世界初の成果が数多く創出されたほか、一部の成果については実用化に向けた進展がみられることを確認した。炎症・老化・睡眠など、今まで科学の俎上に載りにくかったテーマに着手し、定量科学として確立しようとチャレンジしている点は高く評価できる。

○ 今後のMS目標の達成の見通し

様々な疾患の根本原因と考えられる「慢性炎症」を研究開発の中核にすることで、幅広い研究開発課題を扱いつつもプログラム全体として一体的に運用できている点は強みである。引き続きMSらしい挑戦的な研究開発を続け、基礎研究をより深化するとともに、実用化可能な課題の選択と集中の観点からポートフォリオの見直しを行った上で、研究開発成果の実用化・社会実装に向けた取組を加速できるよう、計画を進めていくことを確認した。

その際、よりハイインパクトな成果を目指す上で足りない要素が明らかになったときには、機動的に対応できるよう、柔軟な研究開発マネジメントが期待される。

なお、MSにおいては、健康寿命の延伸やQOLの向上をもたらす破壊的イノベーションに向け、「2050年までに、超早期に疾患の予測・予防をすることができる社会を実現（目標

2)」及び「2040年までに、主要な疾患を予防・克服し100歳まで健康不安なく人生を楽しむためのサステイナブルな医療・介護システムを実現（目標7）」という2つの目標を設定している。この趣旨は、目標2は、現在の医療では疾患ではないと判断される「超早期」に予兆を検知することにより予防を開始することを、目標7は、加齢に伴う疾患の大元と考えられる「慢性炎症」を制御することにより、不健康時間をゼロに近づけることをターゲットに置き、各々のプログラムが相補的な技術を創出することにより、両目標で発症前の超早期段階から発症後の治療・リハビリテーション段階までを幅広くカバーし、健康寿命の延伸やQoLの向上、加えて我が国の健康・医療・介護産業の競争力強化を目指すところにある。これまでも、目標2と目標7が合同で技術交流会を開催し、それをきっかけに共同研究が開始されるなどの効果がみられており、引き続き連携に取り組み、成果の創出につなげることが期待される。

（付帯事項）

継続にあたり、以下の事項について、引き続き取り組むこと。また、今年度内にムーンショット型研究開発制度に係る戦略推進会議に付帯事項に係る進捗を報告すること。

- プログラムにおける8年目及び10年目に目指す具体的な技術水準の設定
- 健康寿命に与える影響度の検討
- 老化制御に関する倫理的・法制度的・社会的な課題の検討
- 性差分析等、データの多様性を踏まえた研究推進方策の検討
- 目標2との定期的な情報交換及び数理とバイオの統合的手法や認知症等の関連領域での連携推進
- 2040年の目標達成に向けたプログラムの研究体制の継続性と人材育成方策の検討